



学力向上研究協議会

今年度は探究型学習の一層の推進に向けて2回の研修会を実施しました。第1回は教科横断的なアプローチから、第2回は国語科を中心とした教科からのアプローチを通して、確かな学力につながる探究型学習についてご講義いただき、協議により参加者の先生方とともに考えることができました。

また、2回の研修ともに、今年度の全国学力・学習状況調査の山形県及び置賜管内の現状を説明し、それぞれの成果と課題について先生方と共有し、授業改善の方向性について確認しました。

「学力向上につながる探究型学習の推進」第1回

教科横断的なアプローチからの探究型学習

【10月16日（火） 置賜総合支庁西置賜地域振興局】



第1回は、新学習指導要領のキーワードの一つでもある「教科横断的な視点」から考える探究型学習について、山形大学学術研究院の野口 徹 教授にご講義をいただきました。

「教科を横断して、資質・能力を育成する」とは、自校で育成を目指す資質・能力を、子供達の実態を踏まえて明らかにし、各教科等のなかで培っていく、あるいは、教科をつなぎ合わせて育んでいくということであると教えていただきました。

また、「深い学び」の実現には、宣言的知識（教科書等に示された情報から知識を学ぶ）と手続き的知識（子供が活動や経験を通して知識を作り上げて学ぶ）の両方が、子供の中で有意につながり納得することで「概念的知識」を形成していくことが鍵になるということも教えていただきました。さらに、教科等をつないでいくことで、他教科等の学習場面や実生活でも「自分ならどうする？」というイメージが持てるようになり、このような力は全国学力調査のB問題で試されている力であるのご教示いただきました。

なんとなくぼんやりとイメージしていた「教科横断的」「カリキュラム・マネジメント」がどのように子供達の探究につながり、確かな学力を育成するのかということについて、事例を通して確認したり、捉え直したりする研修会になりました。



～参加された先生方の声～

- ・今回の研修の内容から、本校の子供達の姿から、どんな資質・能力を育てていかなければならないかを学校全体で話し合う必要があると感じました。
- ・履歴を含む「カリキュラム」の意味を知り、ついでいる力を生かす単元設定や教科等横断的な視点が必要だと思いました。
- ・探究型学習が、小学校ではずいぶん進んでいるとわかりました。実際に自校で取り組んでいくためには、思考スキルや思考ツールを手始めにして、授業改善を図っていきたいと思いました。
- ・置賜の先生方が、児童生徒のよさを認めながら、児童生徒主体の授業改善に取り組んでいることがわかりました。

「学力向上につながる探究型学習の推進」第2回

国語科を中心とした教科からの探究型学習へのアプローチ

【11月6日（火） 置賜総合支庁西置賜地域振興局】



第2回は、探究型学習の一層の推進を目指した授業改善の視点について、国語科を中心に、山形大学学術研究院の三浦 登志一 教授にご講義をいただきました。

新学習指導要領国語科の内容において、各領域における学習過程が明確化されたことは着目したい点です。三浦先生からは、「国語科のみならず探究型学習の一層の推進を考えた時、その学習過程（プロセス）を学び方として子供自身が獲得していくために、学び方を教師の構想の中だけに留めておくのではなく、もっと子供の側に近づけていくような考え方で授業を構想していくことが大切である」と教えていただきました。とは言うものの、例えば「読むこと」領域では、「構造と内容の把握」（正しく読む）から、「精査・解釈」（自分の考えを入れて読む）、さらに「考えの形成」（自分の考えを持つ）「表現」「共有」（みんなに分かってもらえるように考えを表現する）などのプロセスがありますが、毎時間毎単元全てのプロセスを充実させていくことはなかなか難しいものです。そこで、「この単元で全員に身に付けさせたいプロセスはどこなのか計画的に重点化し（部分）、学校で育てたい資質・能力（全体）に迫っていくというような、『全体』と『部分』の考え方が必要である」ということも教えていただきました。

最後に、「教師は方法を教えることはできるが、どう解釈したり表現したりするのかということ子供達のなかに育っていくもの。教えなければならないことはあるはずなので、そこはしっかり指導したい。しかし、思考力・判断力・表現力は教えられないものの枠に留まらないことが多いので、じっくり焦らずに育てていきたいものである」とお話しいただきました。じっくり育てていくためにも、確かな実践を積み上げていきたいものだと思つた研修会でした。



～参加された先生方の声～

- ・結果につながる決定打はないかもしれませんが、毎日のこの努力を積み重ねていくことや、今回のような研修で方向が正しく向くよう授業改善していくことで、小さくても確実な一歩を進めていきたいと思つています。
- ・演習を通して、教師が明確な答えとして教えて捉えさせる場面と子供達が幅を持って考えることができる場面を分けて展開していくことが、国語の力をつけていくために大事だと思つました。
- ・教えることが中心になっていた今までの指導に気がつきました。探究型を意識した授業をしていたつもりでしたが、学び方が生徒に身に付いていたかどうか・・・と考えさせられました。

探究型学習の実践が進んでいます！

各学校で探究型学習を意識した学校研究や授業改善への取り組みが進み、着実に成果が上がっています。その一例を紹介します。

- 単元をひとまとまりにした授業構想、協働的に学ぶ場面の効果的な設定、振り返りの位置付け等、指導過程のイメージが学校全体で共有され、実践されている。
- 子供の思考を大事にした構想があり、授業では素直なつぶやき、素朴な疑問や発想が認められている。
- 信頼関係のもと、子供が自分の思いを安心して表出し、協働的に課題解決に向かっている。
- 振り返りが確実に行われ、子供が学んだことの有用性や次の疑問を自覚できている。

今後更に探究型学習を推進するために、「学びを深める」ことが重要であると考えています。指導案にも多く見られる文言ですが、「子供がどうなれば学びが深まったと言えるのか」を一層明らかにして授業を構想することがポイントになります。

今後も、“子供一人一人に確かな学力をつける”探究型学習の実践を積み上げていきましょう！